

在宅医療推進センターだより

小出病院内 TEL 025-793-7305 FAX 025-793-7069

令和4年度 推進センターの取組

ワーキングチーム会議 ～課題解決に向けて活動しています～

地域の現状を知る方々の力を借り、より実効性のある事業を展開したいと考え、H30年度からワーキングチーム会議を開催し、意見をj得て事業を進め、「主治医連絡票」、「情報共有ノート」、「多職種連携検討会」などの事業や介護分野と障害分野についての課題解決に取り組んできました。

今年度は、4回開催し1回目の会議で出された課題について2回目、3回目に検討し、その結果を2月に開催された市の地域ケア推進会議、3月に開催された地域包括ケアシステム推進会議に提出しました。

(検討した課題)

独居の人や家族はいるが家族との関わりがない、面倒をみていない人など、気づいたら亡くなっていた人がある。そういう人は医療や介護との結び付きがなく、亡くなった理由もわかりづらい。本来なら助けられた命も助けられないことになる。そういう人に対してどうかかわっていったらよいか。

(検討した内容)

- 1.近所の人の協力
- 2.民生委員のかかわり、気づき
- 3.地域の茶の間、地域の事業
- 4.医療・介護の中断者への対応



(ワーキングチーム会議の皆さん) 1年間ありがとうございました。

「魚沼圏域入退院連携ガイド」

～魚沼地域全体でひとつの病院～

市町を跨ぐ入退院が増え、病院と地域の連携がさらに重要になっています。

このため圏域通の入退院連携ガイドを作成することで、入退院支援を円滑に行い、連携から取り残される人がいないよう、より良い連携が構築できるようにと考えガイドを作成しました。

- ・3/7にガイドの説明会と連携のための特別講話を開催しました。
- ・4/1から活用開始です。

このガイドを、本人・家族の意向に沿った円滑な入退院支援や在宅療養の安定に向けた一歩となるように活用し、必要に応じて見直しを行いながら、さらに連携しやすいガイドにしていきたいと思います。



当地域の「入退院支援連携ガイド」

魚沼市では「魚沼市立小出病院と在宅関係者のための入退院支援連携ガイド」を作成しています。毎年アンケートを取りながら、追加や修正、変更を加え、より利用しやすいガイドにしていまいます。今後は、入退院支援フローに障害のある人の対応を検討し、追加予定です。

うおぬま米ねっと

米ねっと「Team」を活用した情報提供が定着してきました。もっと便利に活用してもらいたいと考え、うおぬま・米ねっと「Team」活用方法説明会「今さら聞けない米ねっと」研修を開催しました。

Teamを活用している中で、「こんなこと聞いてもいいかな?」と思わずに、不都合なこと、不便なことを減らせるように、疑問、質問をどんどんお聞かせください。



<研修会> 専門研修、多職種連携検討会を開催しました

◆◆ 専門研修 ◆◆

<第1回> 令和4年7月25日 参加者：39名

経験5年未満のケアマネジャーを対象に、ケアプラン作成の際に重要となる「アセスメント」について学ぶ研修会

☆「今さら聞けないアセスメント」

～今だから聞いておきたいアセスメント～

☆講師 社会福祉法人妻有福祉会 業務執行理事 田中保雄 氏

<第2回> 令和4年11月15日 参加者：26名

地域支援事業受託機関の職員を対象に、紙芝居を用いて認知症に関する事柄を支援者が地域の方にどう伝えたらよいかを学びました。

☆認知症の「人の気持ち」～思いを理解してかかわる～

☆講師 社会福祉法人妻有福祉会 業務執行理事 田中保雄 氏

<第3回> 令和5年2月16日 参加者：78名

認知症の人と接する機会が多い介護、看護職員等が認知症の症状等を知り、専門職として認知症者への具体的な対応を学び、現場で実践できる力をつけるための研修会

☆テーマ 「認知症の症状とその対応」

☆講師 医療法人魚野会 ほんだ病院 院長 稲月 原 先生

◆◆ 多職種連携検討会

<第1回> 令和4年8月10日(水) 参加者：58名

☆テーマ 「事例を通して多職種で認知症者への対応を考える」それぞれ自分の職種で考えられる支援、多職種へどう繋げたらよいか等をZoomによりグループに分かれて検討



アンケートから、「普段関りが少ない職種の意見を聞き勉強になった」「様々な職種の視点からの意見が、支援のヒントになった」など聞かれました。



事例検討のまとめ

<第2回> 令和4年12月15日(水) 参加者：84名

医療介護連携研修

「医療介護連携による「チーム」で伴走する支援」

☆Ⅰ.事例発表

魚沼基幹病院、魚沼市立小出病院、まちなかや居宅介護支援事業所、うおぬまケアセンター、魚沼市認知症地域支援員、すまいる並柳、いなほ調剤薬局

☆Ⅱ.講演

「この町で“暮らし”、そして“生ききる”に、地域で伴走できていますか？」

講師：在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス 宇都宮宏子先生

「安心して住み続け、住み終わられる」地域となるよう、医療と介護連携による「チーム」で取り組んでいきましょう

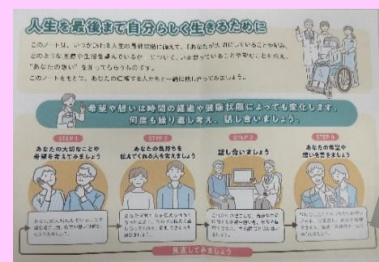
うおぬまでACPする 「わたしの想いノート」完成!

「わたしの想いノート」は、いつか訪れる人生の最終段階に備えて、大切にしていることや、どのような医療や生活を望んでいるかなど、自分らしく人生の最終段階を迎えるための話し合いのきっかけづくりとなる「わたしの想いノート」完成しました。

・なぜ、ACPが必要か住民に理解してもらう

・記入することが目的でなく、話し合うことが大切であり、その機会を持つようにする。話した内容を書き残し、大切な人に伝えるようにする。このノートにより、ご本人や家族、支える人たちへの理解を進め、気持ちを話してもらったため活用が始まっています。

「わたしの想いノート」は、市役所、在宅医療推進センターにあります。活用してみたい、活用できるかも…という方はお声掛けください。お届けします。



いつも在宅医療推進センターの事業にご協力ご支援いただき、心から感謝いたします。

今年度はセンターだよりの発行が1回で、事業報告になってしまい反省しております。今後は内容を工夫しお届けできるよう検討しますので、忌憚のないご意見をお願いします。情報共有ノートが欲しい、様式を見直したい、支援について相談したい...など小さなことからお声掛けください。